

奇才の俳人

みやべすなお

宮部寸七翁

Miyabe
Sunao



明治 20 年(1887)～大正 15 年(1926)

下益城郡生まれ

俳人

早稲田大学政治経済学科を卒業し、九州新聞に入社。「文学亡国論」を唱え、政界への進出を志すが、同社のストライキ事件に関係して退社、やがて肺結核に倒れる。その頃から句作を始め、次第に風格ある秀作を発表して注目を浴びる。中村汀女の少女時代には句作指導を行う。没後刊行された『寸七翁句集』の序文には、「かくの如く佳句の多い一家の集は、きわめて稀に見るところである」と高浜虚子が賛をよせている。